

# リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

## 次 第

〔 日 時 令和4年2月18日(金) 15:30～17:00 〕  
〔 場 所 飯田合同庁舎 講堂 (Web 会議) 〕

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 協議事項

- (1) 社会変化を踏まえた新たな視点（素案）について
- (2) リニアバレー構想実現プラン基本方針に基づく戦略的チャレンジの方向性と課題について

### 4 報告事項

- (1) リニア駅周辺整備の検討状況について
- (2) リニア開通効果を地域振興に活かすビジョンについて
- (3) 経済界との連携について

### 5 閉 会

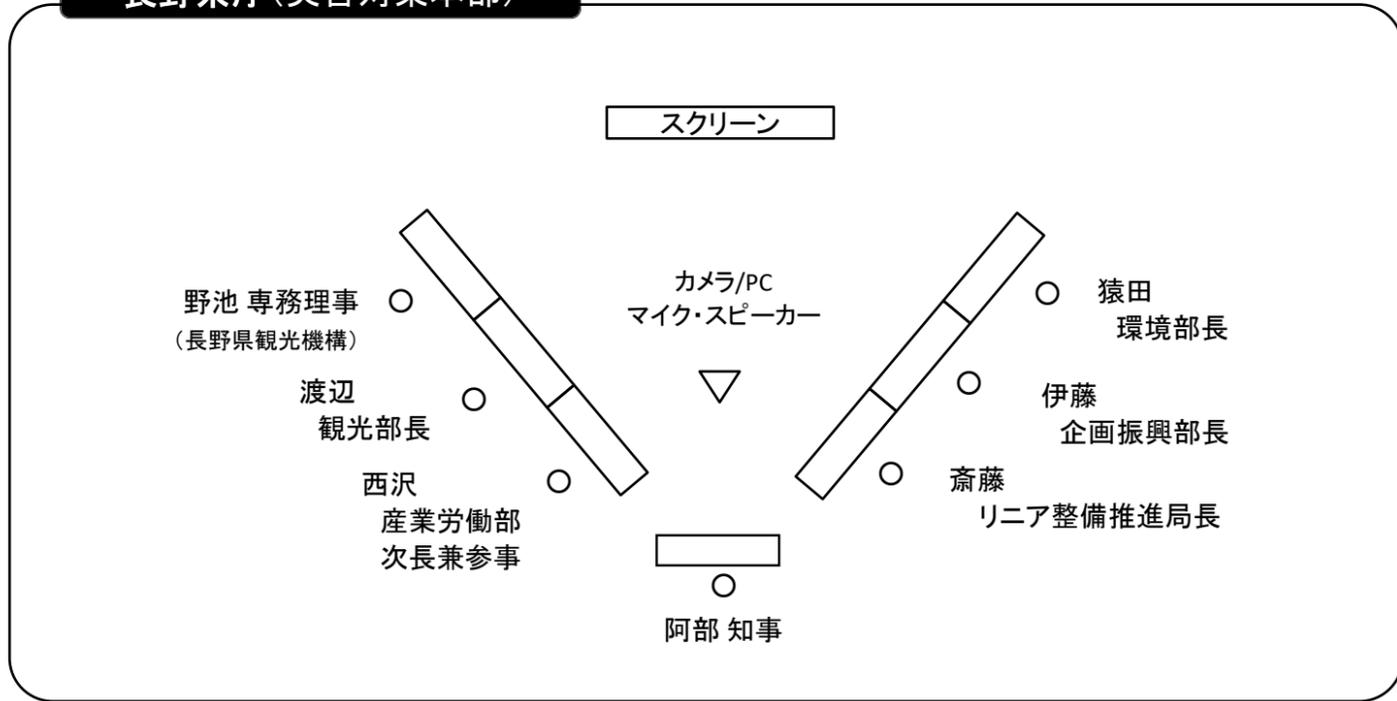
リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

出席者名簿（敬称略）

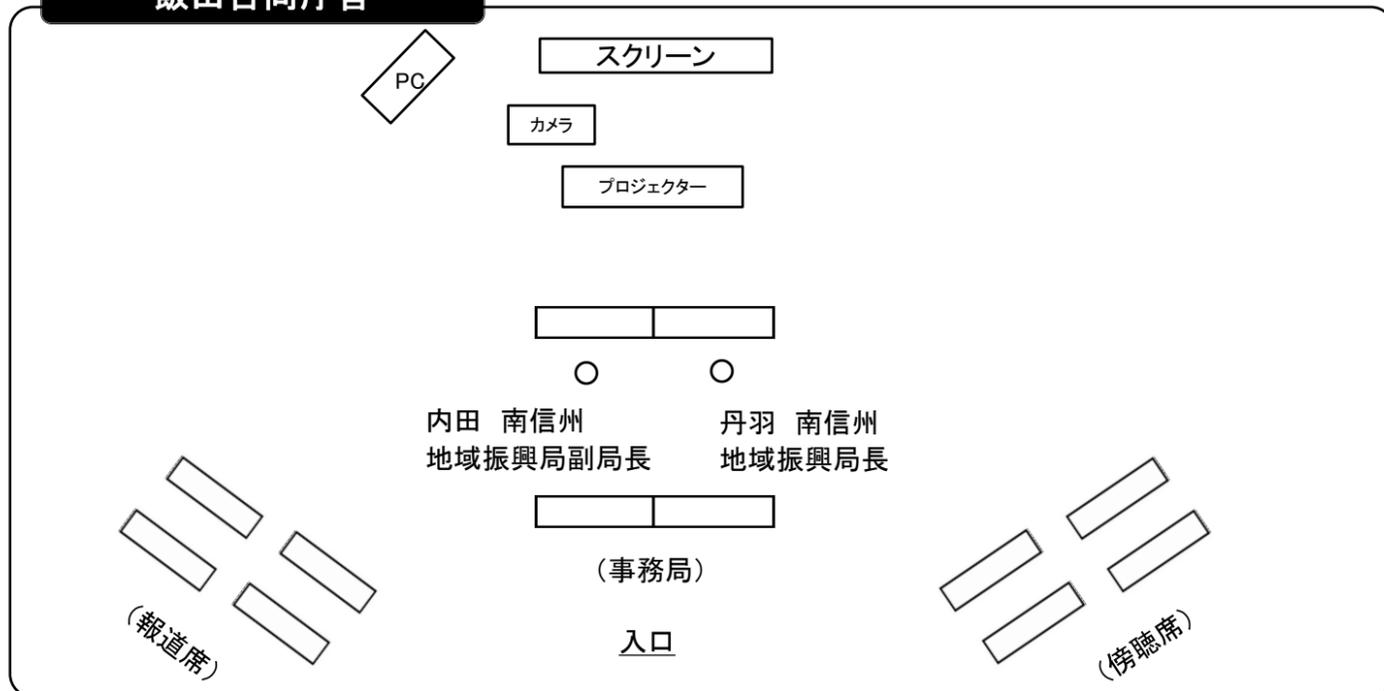
区 分	所 属	氏 名
座 長	長野県知事	阿 部 守 一
市 長	飯田市長	佐 藤 健
	伊那市長	白 鳥 孝
	駒ヶ根市長	伊 藤 祐 三
広域代表	南信州広域連合代表（豊丘村長）	下 平 喜 隆
	上伊那広域連合代表（宮田村長）	小田切 康 彦
長 野 県	上伊那地域振興局長	竹 村 浩一郎
	南信州地域振興局長	丹 羽 克 寿
	伊那建設事務所長	市 岡 恵利子
	飯田建設事務所長	細 川 容 宏
	リニア整備推進局長	齋 藤 政一郎
オブザーバー	木曾広域連合代表（南木曾町長）	向 井 裕 明
	木曾地域振興局長	神 事 正 實

## 伊那谷自治体会議 配席図(オンライン)

### 長野県庁(災害対策本部)



### 飯田合同庁舎



### 各構成員の所属から接続

- 出席者
- ・佐藤 飯田市長
- ・白鳥 伊那市長
- ・伊藤 駒ヶ根市長
- ・下平 豊丘村長  
(南信州広域連合代表)
- ・小田切 宮田村長  
(上伊那広域連合代表)
- ・竹村 上伊那地域振興局長
- ・市岡 伊那建設事務所長
- ・細川 飯田建設事務所長
- ・向井 南木曾町長  
(木曾広域連合代表)
- ・神事 木曾地域振興局長

## 社会変化を踏まえた新たな視点（素案）について

伊那谷自治体会議事務局

### 1 本素案の位置づけ

平成 28 年 2 月にリニアバレー構想を策定し、6 年が経過する中で、ゼロカーボン社会の実現、コロナで顕在化してきた地方回帰の潮流、デジタルトランスフォーメーションの加速化の必要性など、社会の変化を踏まえた新たな視点について、自治体会議幹事会等において議論した内容を整理

#### ◆ご議論いただきたいポイント

(1) リニア開業を活かした地域振興のために、伊那谷で連携して重点的に取り組むべき視点は何か。

(2) 素案に記載の事項以外に新たな視点はないか。

### 2 今後の進め方

- ・ 本日、皆様からのご意見を踏まえて、幹事会において素案を整理し、民間等からも意見を伺った上で、リニアバレー構想に追加すべき項目については次回の自治体会議に諮る予定
- ・ 新たな視点を踏まえて、戦略的チャレンジ（伊那谷で連携して喫緊に取り組むもの）の目的、取組内容を検討

#### ●リニアバレー構想に加える新たな視点（素案）

##### (1) アフターコロナ（つながり人口、働き方・暮らし方）

- ・ コロナ禍で加速したパラダイムシフトにより顕在化した移住・つながり人口など地方回帰の潮流を地域の持続的発展につなげる
- ・ 自らの人生を自らデザインし創造的な生き方が実現できる地域づくり

分野	視点
移住定住	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様性を尊重し、幅広い価値観を持った人々がいきいきと暮らせる地域づくり</li> <li>○若者や子育て世代などにも選んでもらえる環境整備（来訪したくなる拠点づくり、魅力ある職場づくり）</li> </ul>
つながり人口 (二地域居住)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や人のつながりの中で生まれる「つながり人口」の創出</li> <li>○副業・兼業等を通じ、地域の「関わりしろ※」に寄与する都市部の人材の確保 ※地域を良くするために人が関わる余白、伸びしろ</li> <li>○ターゲットを明確にしたテレワーク・ワーケーションの推進</li> </ul>

## (2) DX (デジタルトランスフォーメーション)

- ・移動や買い物、医療、教育などあらゆる分野でDXを推進
- ・人口減少や少子高齢化が引き起こす地域課題を克服するとともに、地域内外の人々に対する新たな価値を創出

分野	視点
広域観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光地のデジタル化、キャッシュレス化の推進 ※実証実験を繰り返しながら広域的に普及</li> <li>○IoTを活用した伊那谷の広域的な情報発信</li> <li>○交通や体験、宿泊予約・決済を一体的に行う仕組みとしての観光型 MaaS の研究</li> </ul>
二次交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域公共交通の利便性向上に向けた MaaS の研究</li> <li>○AI自動配車・乗合タクシーの運用促進</li> </ul>
新技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅でも遠隔診療と服薬指導が受けられるオンライン診療の推進</li> <li>○生活必需品の注文・配送や交通サービスの予約など、サービスプラットフォームの構築による買物弱者支援の推進</li> </ul>

## (3) ゼロカーボン

- ・森林や水、太陽光など恵まれた地域資源を最大限活用して再生可能エネルギーを普及
- ・エネルギーの地域内経済循環を構築することにより脱炭素社会を実現

分野	視点
創エネ・省エネ化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の再生可能エネルギーを活かした、エネルギー自立地域づくりを推進</li> <li>○リニア駅周辺の脱炭素街区・飯田版スマートグリッドの構築</li> <li>○県企業局と連携した“太陽と水と自然エネルギーの谷”の構築</li> </ul>
CO2 吸収源対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地元産木材の利用拡大を図り、計画的な森林整備を推進</li> <li>○リニア駅周辺の整備におけるグリーンインフラの導入推進</li> </ul>
横断的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二次交通、観光、産業等各分野におけるゼロカーボンの推進</li> <li>○多様な主体が参画するプラットフォーム等を活用した、情報交換や事業検討等の実施</li> </ul>

# リニアバレー構想実現プラン基本方針に基づく戦略的チャレンジの 方向性と課題について

伊那谷自治体会議事務局

## 1 広域二次交通の整備

### (1) 上伊那・木曽圏域へのアクセス検討状況

- ・ 高速バスの活用を検討（伊那谷自治体会議 交通担当課長会議）
  - ◆伊那市や駒ヶ根市のインターチェンジを交通結節点と想定し、リニア長野県  
駅から短時間で接続
  - ◆伊那谷、木曽の主要観光地間をバスで接続するルート

### (2) 検討を進めるために方向性の整理が必要な課題

#### ① 導入する交通手段に求める優先順位

- ・ リニア利用者増に向けた伊那谷地域のアクセスとして求められる交通手段  
(利便性、速達性、定時性、経済性の視点など)
- ・ 対象とする住民・来訪者（観光、ビジネス、通勤通学の視点など） 起点  
で重点的に整備すべき交通手段の優先順位
- ・ 利便性に配慮した交通結節点など接続のあり方

#### ② 新たな交通技術の導入

- ・ 将来の交通新技術（自動運転、MaaS、デマンド交通など）の導入に向けた  
検討と開業までに準備すべきことは何か

#### ③ 脱炭素の取組

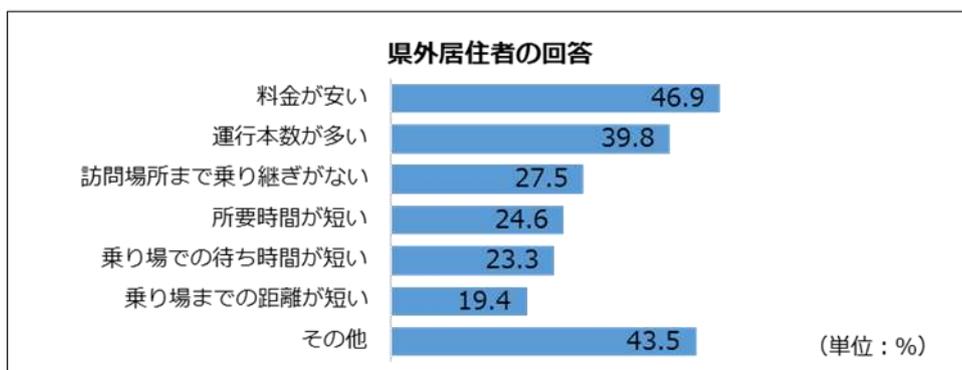
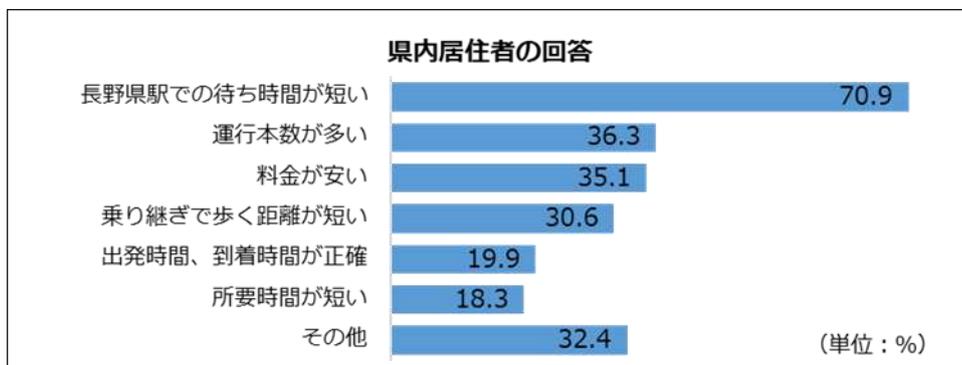
- ・ 脱炭素の視点をどう取り入れるべきか

### ◆ご議論いただきたいポイント

※各自治体として、また各圏域としての視点から、上記の課題について  
ご発言をお願いします。

- (1) 交通手段の優先順位
- (2) 新たな交通技術
- (3) 脱炭素の取組

## リニア長野県駅からのアクセス交通を選択する際に重視する項目について



出典：リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスのあり方調査事業報告書  
(R元 上伊那・南信州地域振興局)



## 上記項目を満たす可能性のある移動手段

料金が安い ⇒ バス、鉄道

運行本数が多い ⇒ バス

訪問場所まで乗り継ぎがない ⇒ バス、タクシー  
レンタカー

所要時間が短い ⇒ バス、タクシー、レンタカー

乗り場での待ち時間が短い ⇒ バス、タクシー

## 2 グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

### (1) 伊那谷自治体会議（R3.2.9）における意見

- ① 外国企業をターゲットにするよりも、地元企業や国内企業をターゲットとするべきではないか。
- ② 通信環境の整備に力を入れて、誰もがどこでも働ける環境を作ることが重要。
- ③ アフターコロナを踏まえ、企業の誘致のあり方を見直していかなければならないのではないかと。

### (2) 上記意見に対する考え方

#### ① グローバル企業の範囲

国内外を問わず、グローバル経済圏で外需を生み、雇用創出も含め地域発展に寄与する企業

#### ② 通信環境等の整備

サテライトオフィス等における通信環境の整備については、信州リゾートテレワーク推進事業において、現状調査を実施し標準的な規格を検討するなど、利用者の増加につながる運営支援を行う。

#### ③ 県としての企業誘致の方向性

### リニアバレー構想 リニアバレーにおける企業誘致の方向性

#### 構想策定後の状況の変化

国内では、

コロナ禍の影響等により、首都圏で地方回帰が進行、IT企業を中心に本社機能の一部移転が増加

海外では、

アジア情勢等の変化を踏まえ、国内回帰進行、製造業の生産拠点を国内へ立地する企業が増加

変化を好機と捉え、

**地域アセット（リニア等） × IT企業 × 製造業など**

シナジー効果をもたらす企業誘致はできないか

**地域アセット × 世界を変えるテクノロジー グローバル企業を誘致**

例： 農産品 × フードテック企業      医療・介護 × ヘルステック企業

森林資源 × クリーンテック企業    大学・専門学校 × エドテック企業

航空宇宙 × エス・バード × 製造業

#### ◆ ご議論いただきたいポイント

※ 各自治体として、また各圏域としての視点から、リニアバレー構想に関連し  
どのような企業の誘致を目指していくか、ご発言をお願いします。

## 立地動向等を踏まえた企業誘致の方向性

### 【リニアバレーの産業構造】

全県 10 万事業所の中、4 人以上の事業所は約 5,000 社、うちリニアバレー管内で 1,100 社

【上伊那】製造業が 38.6% 寒天、食品、ワイン・シードル、先進的な開発・製造が盛ん

【南信州】製造業が 31.2% 水引、凍り豆腐、半生菓子、航空宇宙・メディカルに取り組む企業が増加

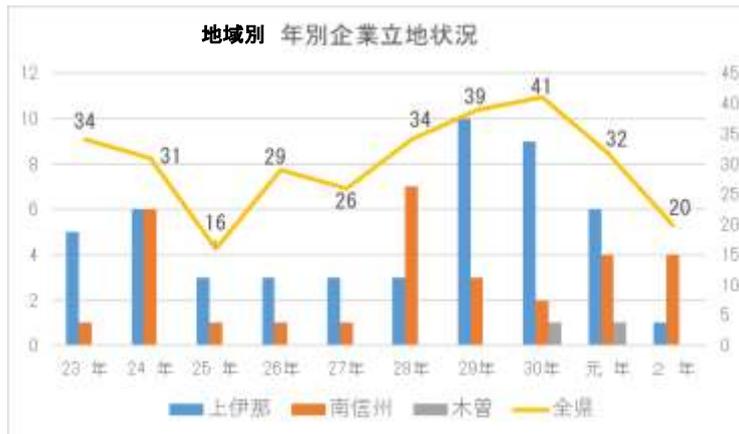
【木曾】製造業が 38.5% 食品、木材・木製品、発酵食品の需要拡大に対応

### 【過去 10 年間の企業立地動向】



※上伊那・下伊那・木曾地域全体の状況は全県とほぼ同様の傾向

出典：経済産業省「工場立地動向調査結果」



### 過去 10 年の立地動向を踏まえた新たな企業誘致の可能性

※長野県ものづくり産業振興戦略プラン  
産業イノベーション創出型プロジェクト

#### 【業種別の状況】

- 加工組み立て型産業の割合は多い
- 素材産業は加工に次ぐ割合
- 食品産業の立地は底堅く推移

#### 【イノベプロジェクト※】

- No. 16 航空機システム産業の集積
- No. 14 ゼロエミッション生産技術による環境調和型産業の集積
- No. 6 健康増進と経済活性化に寄与する食品関連製造業の集積

#### 【新たな視点】

- 産業 DX
- クリーンテック
- フードテック

#### 【地域別の状況】

- 全県同様、上伊那は落ち込み傾向
- 木曾は全体として立地少ない
- 南信州は近年増加傾向

#### 【イノベプロジェクト】

- No. 5 オープンイノベーション日常生活動作支援産業の集積
- No. 7 発酵食品による地域のブランディングを通じた産業の集積

#### 【新たな視点】

- ヘルステック・エドテック
- クリーンテック

# リニアバレー構想実現プラン基本方針

＜伊那谷地域の戦略的チャレンジ（リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの）＞

## 進捗状況及び令和4年度の進め方

- ① 景観形成、共通サイン整備  
【三風の会＋南信州広域連合】
- ② 広域二次交通の整備  
【行政＋民間事業者】
- ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充  
【企業・経済団体＋市町村＋地域振興局】
- ⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備  
【広域DMO＋観光機構】
- ⑩ グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進  
【県産業労働部・地域振興局＋市町村】
- ⑪ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進  
【県産業労働部・地域振興局＋市町村】

# リニアバレー構想実現プラン基本方針 戦略的チャレンジ①

## 景観形成、共通サイン整備

### ■チャレンジの目的

- 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす

### 1 令和3年度の実績

#### <地域の連携>

#### ① 調和のとれたサインの整備等、伊那谷の景観形成に向けた取組

##### ○ 各地域の取組

###### <上伊那地域>

- ・ 不要看板撤去及び三風モデル看板等の設置促進  
改善 59件 (R2.10~R4.1実績)
- ・ 伊那谷風土記街道沿いの広告看板のあり方について検討開始

###### <南信州地域>

- ・ 景観重点化路線 (サイン整備・支障木の除去等) の選定
- ・ 「不要・危険・意味がない等の看板」の調査・改善  
調査 160件、改善 42件 (R2.9~R3.9実績)

##### ○ 上伊那・南信州の連携した取組

- ・ 南信州フルーツラインのサイン整備に向けた  
合同会議 (三風モデル看板の導入検討)
- ・ 景観形成に関する各地域の取組事例を学  
び合う相互視察・情報交換を実施



##### ○ 成果 (三風モデル看板の設置)

高森町：2箇所、大鹿村：公共サインの設置を決定

#### <山岳サインシステムの統一>

#### ② 「南アルプスユネスコエコパークにおける登山道誘導標識のガイドライン」による取組推進

- ・ ガイドラインに基づく看板設置を呼びかけ

#### ③ 中央アルプスのサイン統一に向けた関係市町村との調整等

- ・ 山域全体の統一的な道標の整備に向けた素々案を策定
- ・ 関係者による協議を開始

### 2 課題

#### ○ 景観の保全・発掘・発信に向けた取組の推進

伊那谷で調和のとれた景観を形成するため、サイン整備に加えて豊かな景観を保全・発掘・発信する取組が必要

### 3 令和4年度の実績及び主体 (案)

#### <地域の連携>

#### ① 調和のとれたサインの整備等、伊那谷の景観形成に向けた取組

##### ○ 各地域の取組

###### <上伊那地域>【三風の会】

- ・ 伊那谷風土記街道沿いにおける風景ルールづくりの模索

###### <南信州地域>【景観形成プロジェクト会議(南信州広域連合・飯田建設事務所)】

- ・ 景観重点化路線の取組検証、ガイドラインの研究
- ・ 看板調査の継続 (~ R7)

##### ○ 共通の取組【三風の会・関係市町村・南信州広域連合】

- ・ 風景に調和したサインの導入を検討
- ・ 各地域の取組を学び合う相互視察・情報交換の継続実施

#### <山岳サインシステムの統一>

#### ② 南アルプスユネスコエコパークにおける取組の推進

##### 【南アルプス自然環境保全活用連携協議会】

- ・ ガイドライン活用の周知、建替・新設等の実績調査

#### ③ 中央アルプスのサイン統一に向けた取組

##### 【中央アルプス地区山岳遭難防止対策協会、駒ヶ根市】

- ・ 中央アルプス縦走路においてモデル的な取組 (看板設置) を開始

#### <新規事業>

#### ④ 伊那谷ビュースポット発掘・発信事業の実施

##### 【上伊那地域振興局、南信州地域振興局】

##### ○ 目的

伊那谷の隠れた景観スポットを発掘し、保護と活用を推進することで魅力アップを図る

##### ○ 内容

- ・ 市町村と連携したビュースポット写真の通年収集
- ・ インスタグラムを活用したフォトコンテストの実施
- ・ 収集したビュースポットについて、SNSの活用や地域の機関紙等と連携した情報発信の検討



■チャレンジの目的

- 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす
- 国内外から人を惹きつける地域をつくる

1 令和3年度 of 取組実績

検討の範囲	検討主体
① 伊那谷・木曾圏域を越えた拠点へのアクセス	県（交通政策課、リニア整備推進局）
② 伊那谷・木曾圏域内の広域二次交通の結節点	伊那谷自治体会議（交通担当課長会議）
③ ②の結節点等から市町村管内の目的地までのアクセス	広域連合、市町村

令和2年度に整理した上記役割分担により、伊那谷・木曾圏域内の広域二次交通に関する検討等を実施

- ① 高速バスを主軸とした広域二次交通のルート及びスケジュールを検討（スケジュールの詳細は別添資料1のとおり）  
DMO等に観光地へのアクセスに係る課題等について意見照会を行った結果を踏まえ、広域二次交通のルート（シャトルバス）を追加
- ② MaaS研修会の開催  
第1回：テーマ「MaaSによる地域課題解決とその可能性について」  
第2回：テーマ I 「MaaSを活用した観光地づくりについて」  
II 「観光型MaaSの実施例について」
- ③ 3圏域（上伊那・南信州・木曾）の広域的な公共交通路線をまとめたマップの作成

2 課題

- ① バス路線の詳細な検討  
バス路線の申請にあたっては、関係者との調整（停留所の新設を含む）、需要量等の調査が必要であることから、長野県公共交通活性化協議会の検討を踏まえた詳細な検討が必要
- ② MaaSの構築  
伊那谷地域におけるMaaSの導入を進めるためには、交通事業者、観光施設、宿泊施設など関係する事業者と連携して研究を進めることが必要

3 令和4年度の取組(案) 【取組主体】交通担当課長会議

- ① 広域二次交通のルートの詳細検討
  - ア 高速バス  
高速道路区域内に設ける交通結節点（バス停の新設箇所）を整理
  - イ シャトルバス  
交通事業者、DMO等にヒアリングを行い、民間における考え方を整理
  - ウ 一般道の活用  
目的地及び移動手段について検討
- ② MaaSの活用研究  
県関係部署と連携し、DMOや民間事業者とともに「観光型MaaS」の取り組み方について検討
- ③ 長野県公共交通活性化協議会との調整  
上記①・②について、長野県地域公共交通計画（広域的な「移動の軸」）、「MaaSの基盤づくり」の検討・取組との調整

## ■ 広域二次交通のルート整備に係る想定スケジュール

【高】…高速バス 【シ】…シャトルバス 【共】…高速バス、シャトルバス共通

準備項目		5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	リニア 開業年
関係者との 調整	【共】 交通事業者協議						
	【高】 NEXCO協議※						
	【高】 長野県公共交通 活性化協議会と の調整						
	【シ】 観光施設運営者、 事業者協議						
需要調査	【共】 観光客予測 バス利用需要						
運行計画	【シ】 実施路線等検討						
	【シ】 試験運転						運行開始
	【高】 実施路線検討						
	【高】 試験運転						
	【高】 運賃、便数、 ダイヤ検討						
	【高】 路線認可						運行開始
環境整備に係 る調査設計、 工事	【高】 整備計画変更手続 き（高速区域）※						
	【高】 バス停留施設※			調査設計	工事開始	整備完了	
	【高】 路線バス乗り入れ スペース※						
	【高】 待合環境※						
	【高】 駐車場※						
	【高】 案内設備※					工事開始	整備完了

※ 高速道路区域内（SIC等）にバス停留所等の設置を希望する市町村が対応するもの

# リニアバレー構想実現プラン基本方針 戦略的チャレンジ⑤

## 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充

### ■チャレンジの目的

- 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす
- 地域を支える産業の活性化

### 1 令和3年度の取組実績

#### ① 「伊那谷deキャリア教育研修会」の開催

##### ○目的

上伊那・南信州地域それぞれの良さ・素晴らしさを共有し、教職員をはじめ伊那谷の未来を担う世代の育成関係者のつながりをつくる

##### ○参加者

人材育成関係者161名(内訳)教職員83,行政職員54,産業界13,地域住民等11

##### ○内容

講演(講師:平田オリザ氏)、鼎談、グループワーク

##### ○成果

- ・伊那谷の育成関係者が、地域の未来を語り合う初めての機会となり、地域を枠を超えた関係者のつながりや一体感が醸成
- ・人口減少や高齢化など、地域の危機的現状及びキャリア教育の目指すべき方向性を共有
- ・参加者の満足度は8割超



#### ② Facebook「伊那谷deキャリア教育」による情報発信

##### ○目的

キャリア教育の取組を共有するとともに、上伊那・南信州地域それぞれの「違い」「良さ」を知り、取組・連携を促進する

##### ○掲載内容

小学校ふるさと学習、中学校キャリア教育、高校探究の学び等

##### ○投稿数、フォロワー

42投稿、106人

##### ○成果

- ・伊那谷地域のキャリア教育の実践的な取組の共有
- ・フォロワーの投稿の拡散による横のつながりが拡大

### 2 課題

- ① キャリア教育関係者の更なるネットワークづくりの推進
- ② 上伊那・南信州地域が連携した取組の推進

#### ＜人材育成関係者のアンケート結果＞

- ・今後も両地域の交流の場を設けて欲しい
- ・若い教員や企業からの参加が増えると良い
- ・若者が戻りたくなる、まちづくりの具体的な取組を知りたい
- ・学校や企業の取組、子どもたちが自ら発信する情報が見たい

### 3 令和4年度の取組(案)【取組主体】実務担当者会

#### ① キャリア教育研修会の開催

- ・育成関係者のつながりを増やすため、継続して開催
- ・若手教職員や企業からの参加を促すため、働きかけを強化
- ・事例発表を取り入れる等、内容を充実

#### ② Facebook掲載内容の拡充

- ・人材育成関係者に投稿を呼びかけ、新たな視点による投稿を含めて掲載数を拡大・充実

#### ③ 地域の取組への相互参加を促進

- ・各地域で行われている取組を学びあうために、相互参加を促進

#### ④ 連携した新たな取組の検討

- ・各地域で行われている取組の連携を検討

# リニアバレー構想実現プラン基本方針 戦略的チャレンジ⑥

## 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備

### ■チャレンジの目的

- 国内外から人を惹きつける地域をつくる

### 1 令和3年度の実績

#### ① 3地域周遊コンテンツ・コースの検討

- 国内向け3地域周遊コースの造成に向けた取組み  
旅行会社・メディアによるファミトリップの実施（詳細別紙）  
（上伊那-木曽、上伊那-南信州、南信州-木曽の3コース）
- インバウンドモデルコース造成  
コンテンツ開発、モデルコース造成ワークショップの実施  
海外旅行会社との商談（3/1~3オンライン）  
造成コンテンツ  
（飯田市）和船下り体験、大平宿滞在体験（伊那市）田楽座・伝統芸能体験  
（飯島町）しめ縄作り&囲炉裏料理体験、（王滝村）御嶽古道&滝行  
（辰野町~塩尻市奈良井）初期中山道サイクリング ほか

#### ○成果

- ・情報共有に留まらず、誘客に向けた具体的な取組みを開始
- ・商品販売に向けた課題の把握



【ファミトリップ(天竜川ラフティング)】

#### ② 3地域の観光関連組織の見直し、各地域内責任者の明確化

- 上記①を実施する主体の発足（R3.3）
  - ・伊那路木曽路意見交換会  
（一社）長野伊那谷観光局、（株）南信州観光公社、木曽観光連盟  
（一社）木曽おんたけ観光局、（一社）上松町観光協会、  
（一社）南木曽町観光協会  
（一社）長野県観光機構、上伊那・南信州・木曽地域振興局

#### ③ 広域観光推進体制（案）の作成、方向性の検討

- 伊那谷の観光ビジョン策定について情報交換  
（長野伊那谷観光局、南信州観光公社、飯田市、地域振興局）

### 2 課題

- ① 3地域連携により造成した商品を継続的に販売するための仕組みづくり
- ② 3地域コンテンツの磨き上げと市場開拓

### 3 令和4年度の実績及び主体（案）

#### ① 3地域周遊コンテンツ・コースの検討

- 国内向け3地域周遊コースの造成に向けた取組み  
【伊那路木曽路意見交換会】
  - ・商品に応じたプロモーション・販売手法の検討及び合意形成
  - ・3地域コンテンツの磨き上げと市場開拓のためのモニターツアー実施
- 水引、シルク産業、木曽の伝統工芸などに焦点を当てたインバウンドコンテンツの創出（観光庁事業）  
【観光機構、木曽観光連盟、長野伊那谷観光局、南信州観光公社、上松町観光協会、中部森林管理局】
  - ・伝統的工芸品や農家の手仕事等の製作工程の再現や体験、匠の技術紹介による誘客コンテンツづくり
  - ・技術を継承し続けてきた地域住民との滞在交流型コンテンツ構築（モニターツアー、ファミトリップ、ガイド人材育成など）

#### ② 3地域の観光関連組織の見直し

- 【伊那路木曽路意見交換会、伊那路・木曽路広域観光連携会議】
  - 意見交換会と連携会議の関係性を整理  
（例）意見交換会を連携会議の部会として位置付ける等

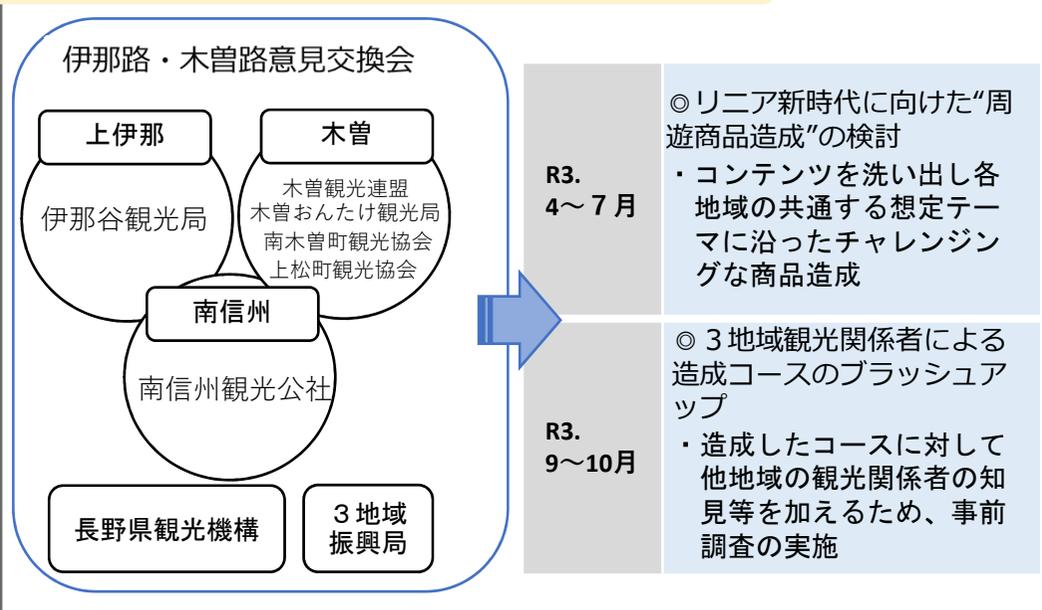
#### ③ 広域観光推進体制（案）の作成、方向性の検討

- 【上伊那広域連合、長野伊那谷観光局、南信州観光公社、南信州広域連合、飯田市、3地域振興局、観光機構ほか】
  - リニア開業までに必要な取組と役割分担の協議

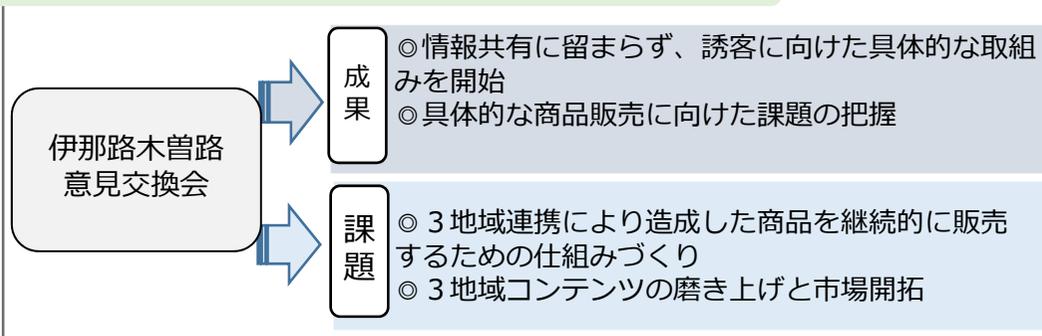
### ■ 事業の目的

○リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通を見据え、上伊那・南信州・木曽の3地域が連携した観光誘客に向けた具体的な取組を推進させるため、3地域周遊コースの検討とファミトリップを実施

### ■ 3地域における実施体制及び取組の進め方



### ■ 実施体制における事業実績



### ■ ファムトリップ事業実績

【上伊那－木曽コース】 参加メディア5名  
令和3年10月3日（日）～10月4日（月）

- 中尾座・歌舞伎なりきり体験（伊那市）
- わらじ作り体験（飯島町）
- 早太郎温泉【宿泊】（駒ヶ根市）
- 奈良井宿中山道ウォーキング（木祖村）
- お六櫛磨き体験（木祖村）

**★ コンセプト**  
地元の伝統文化とアクティビティの融合

**★ ポイント**  
専門家指導のもと伝統的なわらじ細工体験制作したわらじは翌日ウォーキングにて使用

**★ 得られた課題**  
〈わらじ作り体験〉  
職人の思いを聴くことができる貴重な体験だが、作業時間が長い工夫が必要  
〈奈良井宿散策〉  
馬籠宿・妻籠宿とは異なる特徴あるコンテンツが必要

【上伊那－南信州コース】 参加メディア5名  
令和3年10月6日（水）～10月7日（木）

- 地蜂（すがれ）追い体験（伊那市）
- しらびそ高原【宿泊】（飯田市）
- 下栗の里・展望台（飯田市）
- 天竜川ラフティング（飯田市）
- 天龍峡そらさんぼ（飯田市）

**★ コンセプト**  
自然とアクティビティを一体として体験

**★ ポイント**  
伊那谷に古くから根付く昆虫食文化を地元愛好家と共に体験

**★ 得られた課題**  
〈地蜂（すがれ）追い〉  
ここでしか体験できない希少性があるが、商品化に向けて、地蜂の巣ができる時期的な課題、少人数でのみ対応可能など地元の受入体制が課題

【南信州－木曽コース】 参加メディア4名  
令和3年10月11日（月）～10月12日（火）

- 工房・菜(なな)や木工体験（阿智村）
- 妻籠宿での分宿【宿泊】（南木曽町）
- からすみ作り体験・妻籠宿散策（南木曽町）
- 赤沢自然休養林（上松町）

**★ コンセプト**  
自然と健康をテーマに地域特有の文化等の体験

**★ ポイント**  
SDGsに着目し、地域のみどりを活かした天然木でのスプーン制作を体験

**★ 得られた課題**  
〈からすみ(伝統菓子)作り〉  
シンプルなお菓子であるため、お菓子作りの行程の中にアレンジを加えていくことが必要  
また、地元住民と更に懇談する機会を設け、一歩踏み込んだ地域の情報を得られると面白い

# リニアバレー構想実現プラン基本方針 戦略的チャレンジ⑩⑪

## グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進

### 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

#### ■チャレンジの目的

- 地域を支える産業の活性化

#### 1 令和3年度の実績

- ① **リニア開業と長野県駅の認知度を高める取組を強化**
  - ・伊那谷を3大都市圏において広く認知してもらうため、企業訪問のみならず、あらゆる機会を通じて企業立地ガイド等でPRを実施
  - ・地域における企業誘致の方向性を明確化するため、3市、下伊那郡北部5町村の担当部課長等と意見交換を実施（2021年7月、2022年1月）
- ② **サテライトオフィス・ワーケーション施設の情報発信**
  - ・伊那谷の市町村等を対象にテレワーク等に関する勉強会を開催（2021年7月）
  - ・サテライトオフィス・ワーケーション施設を紹介するパンフレットを作成し、東京、名古屋、大阪等で配布しPR実施（2022年3月）
- ③ **「おためし立地 チャレンジナガノ」による地域と企業とのマッチング**
  - ・課題を持つ市町村と課題解決企業とのマッチングを実施（2021年9月～）

《辰野町》

  - ・地域交通最適化：(株)バイタルリード（島根県）
  - ・6次産業化への展開支援：XYZ(株)（松本市）
  - ・遠隔見守りシステム等の活用：AP TECH(株)（岩手県）

《飯田市》

  - ・製造業の工場現場のDX推進：ものレボ(株)（京都府）
  - ・人材マッチングによる生産性向上支援：JOINS(株)（白馬村）
  - ・精密加工業の生産性向上：アルム(株)（石川県）

DEMODAY（成果発表会）  
2022.2.14オンライン開催



#### 2 課題

- ① 小さな町村は発信力やPR力が弱いため、市町村と県とのプロジェクトチームを作り、企業への訴求力の高いメディアを活用した情報発信を行うことが必要
- ② ワーケーションや市町村との共創による地域課題の解決等、企業と地域のつながりの創出を強化

#### 3 令和4年度の実績及び主体(案)

- ① **リニア開業と長野県駅の認知度を高める取組を強化**

【産業労働部、地域振興局、市町村】

  - ・市町村が希望する企業を誘致するための情報交換、勉強会を実施（環境産業、IT関連産業のほか、ワーケーションやサテライトオフィス利用企業など）
  - ・企業立地ガイド（Web、冊子）による都市部企業への周知
  - ・展示会出展時に来場企業に向け、立地優遇制度をPR
- ② **市町村と県とのプロジェクトチームによるサテライトオフィス・ワーケーション施設等の情報発信**

【市町村、地域振興局、産業労働部】

  - ・参加意向のある上伊那、南信州の市町村と県とのプロジェクトチームの編成
  - ・県外事務所等を活用し、都市部企業への情報発信
- ③ **「おためしナガノ」事業、「おためし立地 チャレンジナガノ」事業の実施**

【産業労働部、地域振興局、探択市町村】

  - おためしナガノ
    - ・県外のITを中心としたクリエイティブ人材・企業に対し、オフィス利用料、交通費等の補助により、最大6か月間程度、県内に「おためし」で住んで仕事をする機会を提供
  - おためし立地チャレンジナガノ
    - ・市町村の地域課題の解決に取り組む企業を募集・マッチングを実施し、長野県内への立地を促進